

小学校における食育の実態に関する研究

大川 龍輝 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：食育，食育基本法，給食指導

1. 緒言

筆者が小学6年生の時に施行された食育基本法だが、5年生の時と変わりは感じられない。現在も食育に積極的に取り組んでいる地域もある。しかし、ほとんどの学校では、食育によって何が変わったのか、問題点は解決されているのかが分からないのが現状ではないだろうか。

そこで、栄養教諭をすべての学校に配置するということが難しいとされている状況で、今回は小学校の教員が食育に対してどう考えているのか。また食育基本法をどの程度知り、どうやって各教員が食育に関わって問題点を解決しているのか明らかにしたいと考え、本研究に取り組むに至った。

2. 研究方法

アンケート調査：教職員がどのような意識で食育に関わっているかを調べ、それを基に考察する。

3. 結果と考察

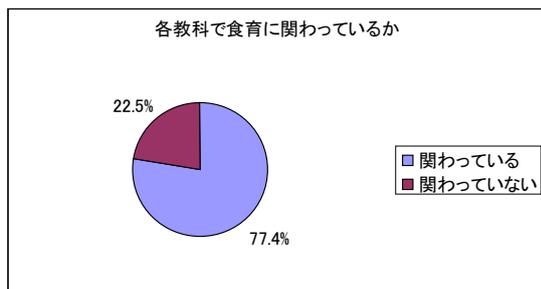


図1 各教科で食育に関わっているか

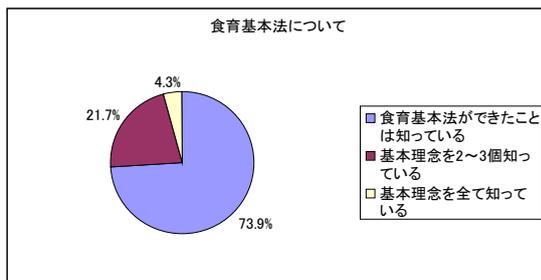


図2 食育基本法について

調査結果から、食育基本法ができてから食育に対してやらなければと感じるようになったと全員が回答している。しかし、食育基本法については基本理念すら分かっていない教員が多くいた。

食育基本法ができ、食育に対する意識の変化は見られた。教科の特性を活かして食育に関わったり、担当しているクラスでの給食指導や、道徳やライフスキルの授業で食育を行っている。しかし、食育を理解できていない教員が多数いる。その結果、食育を知らない教員が食育を教えたり、家庭と学校が連携できずにいるため、現在の児童の肥満や、やせ、朝食の欠食といった部分の改善が見られない。この問題から、教員養成の時点で食育に関する知識を学んでおかなければいけないと考える。

4. まとめ

調査結果から、食育基本法が出来てから食育に対する意識は高まっている。教科ではその教科の特性を活かして食育に取り組み、担当のクラスでは主に給食指導として食育に取り組みているが、食育の本質が見えていない教員は少ないと感じられた。その結果、食育を知らない教員が食育に取り組んでいるため、現在問題となっている、肥満児や、やせ児童、朝食の欠食の改善には至っていないことが分かった。

引用・参考文献

木村友子・西堀すき江 (2008) 事例で学ぶ食育と健康, 建帛社, pp. 7-12.

文部科学省 (2010) 食育推進プラン (アクセス日: 2016. 12. 10).

http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/08100105/035.htm